

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	室内音響小委員会	主 査 名：佐藤 史明 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：岡野 利行
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内音響に関する知見や技術をより広範囲に応用 ・ 室内音響学の社会貢献 ・ 快適性のみならず安全な生活空間の創造を目指す ・ 2013 年度：活動目的・方針の明確化 ・ 2014 年度：建築家や発注者、使用者の方々等との意見情報交換会、各WGの活動のサポート 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：佐藤史明(千葉工業大学) 幹事：青木亜美(日建設計), 豊田恵美(小林理研) 委員：池上雅之(大林組), 石渡智秋(永田音響設計), 上野佳奈子(明治大学), 大久保洋幸(NHK), 川井敬二(熊本大学), 坂本慎一(東京大学), 佐久間哲哉(東京大学), 佐藤洋(産業技術総合研究所), 清水寧(東工大), 羽入敏樹(日本大学), 藤原舞(ヤマハ), 船場ひさお(横浜国立大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	1) 室内音響設計事例集企画検討WG：室内音響設計事例集の企画し、その公表を目指す。 2) スピーチプライバシー研究WG：スピーチプライバシーに関する AIJES の作成を目指す。 3) インパルス応答予測・計測WG：インパルス応答から得られる音響指標のベンチマーク作成を目指す。 4) 子どものための音環境WG：学校施設の音環境に関する AIJ-ES(2008)の拡充的改訂を目指す。	
2013 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	1 .
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	インパルス応答予測・計測WGについては、 1. 英語版ホームページの公開 2. ISRA2013 (6/9～11、カナダ・トロント) での発表 3. ベンチマーク問題と補足的な説明をするコラムによるホームページの充実
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 小委員会：密に核心的議論が行えた。新WGを設置できた。 2. 各WG：各目標に向かって着実に進んでいる。
委員会活動の問題点・課題	1. 遠距離委員 (参加WGの主査) の旅費の充当

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価 (中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>1. 室内音響小委員会の活動成果</p> <p>室内音響学に関する知見や技術を、オーディトリウムやリスニングルームのみならず、広く様々な空間(生活空間であれば、半屋外や屋外も対象)に応用し、快適さらには安全な生活空間の創造を目指し、室内音響学の社会貢献を目指すことを目的に活動を進めてきた。子どものための音環境WGの設置もその活動成果である。また、快適性のみならず生活空間の安全性の問題に対して、音響学(室内音響学に関する知見や技術)が寄与できることを如何に社会に周知してもらうか?という命題について深く意見交換を進めた。革新的な解は得られていないものの、その議論そのものも成果と言えよう。</p> <p>2. WGの活動成果</p> <p>2.1 室内音響設計事例集企画検討WG</p> <p>空間の価値を高めるよりよい室内音響の実現に資することを目的に、事例集のあり方の議論や想定利用者のヒアリングなどを重ねてきた。それらの中では「室内音響は基準や規制が無いので予算を掛ける意識が薄い」、「失敗事例集のニーズが高いが、建物の評価に関わるので掲載許可が得にくい」、「設計者の目を引く写真の準備には、撮影や著作権処理に多大な手間を要する」などの課題が明らかになった。今後これらを踏まえつつ企画をより具体化するために活動を重ねる予定である。</p> <p>2.2 スピーチプライバシー研究WG</p> <p>スピーチプライバシーに関する AIJES 作成に向けた方向性を決めるため、北米・日本の状況について調査・議論を行った。「秘話性のスピーチプライバシー」が医療施設、銀行など、個人情報・医療情報を取り扱う施設においては考慮されており、今後も必要とされることが確認された。AIJESの方向性は、秘話性のスピーチプライバシーをまず対象に、①定性的な性能評価指標をもとに、建築家、施主が設計段階で参考にできる設計ガイドライン的な内容をコアの文章とする、②場・用途と性能に関するマトリクス表を作成し、場ごとの設計ポイントへのアクセスを容易にする、③評価方法、評価指標など、数値性能は Appendix として添付する、以上の方針を決めることができた。来年度は、全体の構成、内容について試案を作成し、建築計画の専門家のヒアリングを行う予定である。</p> <p>2.3 インパルス応答予測・計測WG</p> <p>条件が異なるインパルス応答と算出される音響指標との関連を明らかにし、音響指標算出に関するベンチマーク問題をまとめてきた。2012 年度までに得られた成果を英語版のホームページに公開し、ISRA2013(6/9～11、カナダ・トロント)で発表した。多くの参加者が発表を見て「大切な仕事である」等の好評の意見をいただいた。さらに、ベンチマーク問題と補足的な説明をするコラムを作成してホームページの充実を図った。</p> <p>2.4 子どものための音環境WG</p> <p>本年度9月に新規に設置された。2013年度内に3回のWG会合を持ち、メンバーの拡充、今後の方向性についての議論および合意形成を行うとともに、他分野の講師を招いての討論など具体的な活動を含めて、初年度として有意義な成果を得た。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。